

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 折尾 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概

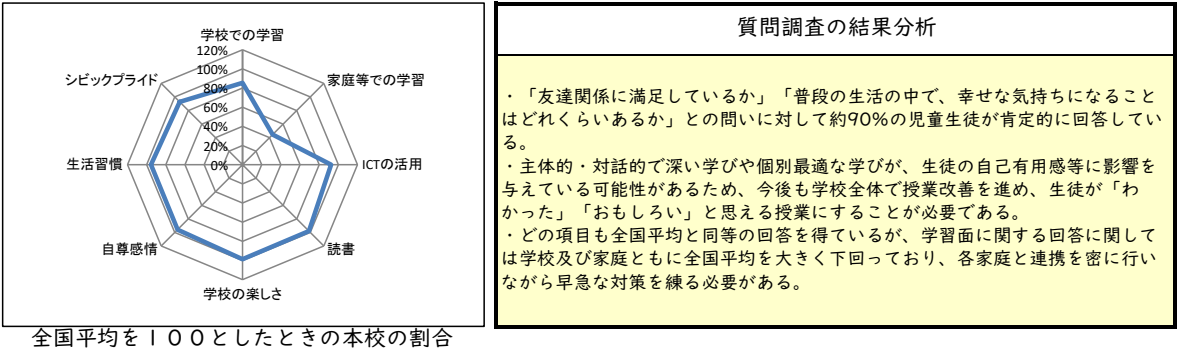
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	どの分野の内容も全国平均と同等である。言葉の特徴や使い方、漢字を正しく使う問題で全国平均を大きく下回った。言葉の意味や正しい漢字などの知識及び技能の向上が大きな課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	特になし	
	努力が必要な問題	漢字を正しく使う問題 自分の考えをわかりやすく伝えるように表現を工夫する問題等	
数学	全体的な傾向や特徴など	基礎的な数値処理能力の弱さが目立つ。特に文字が関係する代数分野を正確に計算する能力が著しく低下している。関数分野は全国平均と同等であり、グラフを読み取る力は全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	グラフから情報を読み取る問題	
	努力が必要な問題	素数の意味、数量を文字で表す、式の意味を読み取る問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に知識・技能が身に付いているかどうかを問う問題の正答率が高く、実験やその結果及びそれを基にした推測することを問う問題の正答率が低くなっている。また、全体的に無回答率が低いことから理科全般的に関心興味を持つ生徒が多いことが推察される。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	回路の電流と電圧、抵抗における知識・技能を問う問題 生命を維持する働きに関する知識を問う問題	
	努力が必要な問題	元素記号を書く問題 音に関する実験で予想される結果を説明する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

授業力の向上に関しては継続して取り組む必要がある。ICT（キュピナ）を使った学習形態を確立させ、家庭学習の充実にどのように繋げていくか本校の大きな課題としてあげられる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の時間の増進を図るために各教科の課題の選定や工夫した課題の作成を行わなければならない。また、学校通信、学年通信等を通して家庭学習の定着を図る啓発を行っていく。さらに、保護者個人懇談会や学年懇談会等を通して各家庭の実態を把握し、学習環境を整えるための助言やアドバイスを行っていく。